

砂丘の緑化

な かの

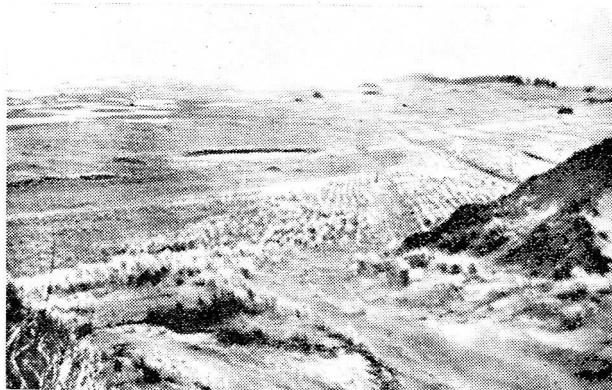
アメリカにおける砂丘地帯は農耕地の、十分の一を占めているようである。海岸地帯や五湖の周辺それから内陸地帯の大部分が砂丘で覆われ、しかもこれが移動して逐次森林を脅し、農耕地を荒廃しつつある。広大な農耕地を有するアメリカでも、この砂丘の暴威を何とかして防ごうと努力を重ねている。

C. J. Whitefield および R. L. Brown



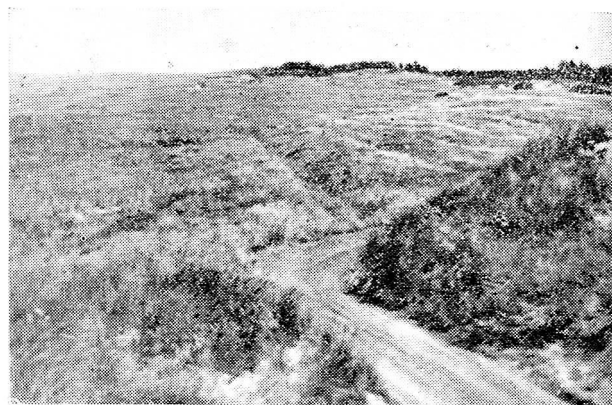
写真一 砂丘

の言によると、砂丘は数世紀来の問題であった。アメリカにおける恐るべき砂丘の大部分は保護作用をする樹木を人間が濫伐したことに起因する。従つてこれらの永久的な対策としては、自然に植物が生えるのを待つか、または植物の種子を播いてやるか、いずれかの方法よりない。機械的な構築物はまだ一時的な砂の移動を止めることができるのみである。オレゴン州の海岸砂丘地



写真二 ビーチグラスの生育状況

帯は全く手に余るものであった。しかし先ず最初にその移動を止めるために、一時的にビーチグラスが植えられた。そして一年後にはクラトソープ、レッドフェスク、トールフェスク、ヘアリーベッチ、パープルビーチ等々の永年生の植物によつて砂丘は永久的に緑の草地と化したのである。写真一はその砂丘であり、写真二は砂丘に植えられたビーチグラスの生育状況、写真三は草地と化した姿を示している。日本でも、八千万の人口を養うため国土の開発が叫ばれてゐる時である。砂丘といわず、禿山、傾斜地等あらゆる不毛の地を緑化し、活用するだけの意気込みと実行力を一刻も早くもちたいものである。



写真三 立派に草地化された姿

御案内。

○秋植球根類

冬来りなば春遠からじと冬の長い東北、北海道では特に春が待たれるものです。春の訪れを庭の草花で知ることとは確かに楽しいもので、春になつてから秋植球根をほしがる方が多いのですが、チューリップ、ヒヤシンス、ムスカリ、アネモネ、クロッカス、水仙、百合類等はすべて秋の間に植えつけておかねばなりません。今年こそ早目にお求めになつて植えつけましょう。詳細は七月号に掲載いたしました。

○果樹、花木類

全国どこへ行つても農家の庭園に、美しい花木が植えられ、さらに果樹が栽培されて四季折々に新鮮な果物が喰べられるようになったら、どんなに楽しいことでしょう。今年の秋こそ果樹、花木を植えましょう。詳細は九月号で案内いたします。

牧草と園藝

第二巻 第八号

定価三十円 送料四円

昭和二十九年八月一日発行

(毎月一回一日発行)

編集兼 五十嵐 清
 発行人 三田 徳光
 印刷所 興国印刷株式会社
 札幌郡豊平町美園
 雪印種苗株式會社
 振替小樽一八二四八番